

輸出事業計画

(京都府農林水産物・加工品輸出促進協議会 宇治茶部会)

1. 輸出における現状と課題

- ①人口減少による需要の先細り等により、高級茶の国内需要は大きく減少する一方、健康志向等により需要が高まる北米・EU等への海外輸出は好調（平成27年:101億円→令和6年:364億円）
- ②輸出に意欲的な府内業者からは、「日本茶需要が急騰している中、残留農薬基準を満たした輸出可能な宇治茶が不足している」との声
- ③最大の輸出先である米国市場に加え、EUや中東においても、“本物志向”の消費者向けに高価格帯商品の需要が高まると予想

2. 輸出事業計画の取組内容

北米・EU等向け高品質宇治茶の生産拡大を図るとともに、品質・健康機能など消費者ニーズを踏まえた戦略的な販路開拓により、高価格帯の輸出拡大を目指す

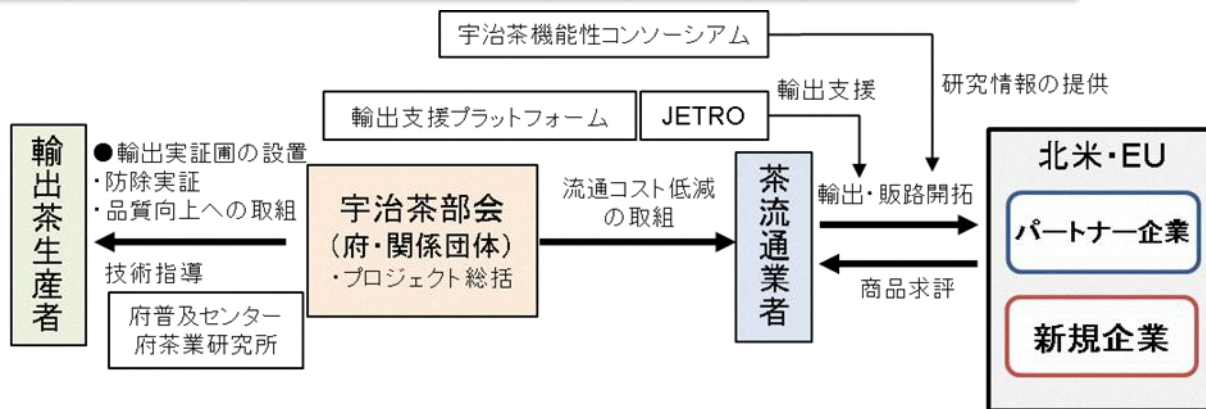
【令和3～6年度】

- 生産・加工等の体制構築、改善支援、強化
- ・相手国の残留農薬基準を満たす防除実証・改善
- ・ドリフト、コンタミ防止のガイドライン作成
- ・輸出対応茶の品質向上検証・改善
- ・海外向け新商品の開発と海外バイヤーへの求評

【令和7年度】

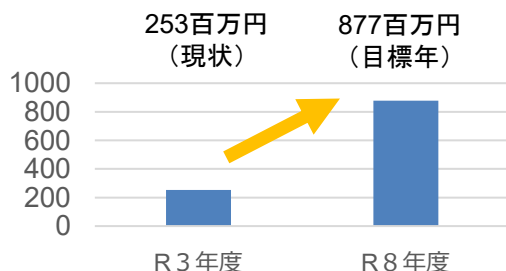
- 大規模輸出産地のモデル構築
- ・体制の強化（商品開発と海外での求評等）
- ・生産体系の転換（防除体系の普及等）
- ・流通体系の転換（流通コスト削減を目指した輸送実証）

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

- ☑ 高価格帯の輸出用宇治茶の産地モデルの確立
- ☑ 宇治茶の輸出拡大（約3.5倍増）
- ☑ 宇治茶生産者の経営安定・向上



米国・EU向け宇治茶の輸出金額(宇治茶部会員のみ)
(京都府農林水産物・加工品輸出促進協議会調べ)